

平成16年度

河川名	地点	水素イオン濃度 PH		生物化学的酸素要求量 BOD		浮遊物質量 SS		溶存酸素量 DO					
		月	年平均	月	年平均	月	年平均	月	年平均				
神田川	久保前橋	5	7.6	8.0	5	3.0	2.0	5	9	3.25	5	10.0	10.9
		9	8.9		9	2.5		9	1		9	9.6	
		11	7.5		11	0.5		11	1		11	11.0	
		2	7.8		2	<0.5		2	2		2	13.0	
	高戸橋	5	6.8	6.95	5	2.2	1.1	5	1	1.0	5	8.8	9.275
		9	7.3		9	0.5		9	<1		9	8.9	
		11	6.9		11	0.6		11	<1		11	9.9	
		2	6.8		2	<0.5		2	1		2	9.5	
妙正寺川	四村橋	5	7.3	7.4	5	1.8	1.55	5	6	8.33	5	10.0	11.25
		9	8.1		9	1.3		9	14		9	11.0	
		11	7.0		11	<0.5		11	<1		11	11.0	
		2	7.2		2	<0.5		2	5		2	13.0	

## 各項目の解説

### 水素イオン濃度 (PH)

水の酸性、アルカリ性を示す指標。0から14の間の数値で表現されています。PHの数値が7だと中性、7から小さくなるほど酸性が強く、7から大きくなるとアルカリ性が強いことを表しています。

環境基準 6.5 ~ 8.5 (C類型)

### 生物化学的酸素要求量 (BOD)

微生物が水中の汚れ(有機物)を食べる(酸化分析)時に必要とされる酸素の量をもって表したものです。値が大きくなるほど河川が汚れているということを表しています。

環境基準 5 mg / l以下 (C類型)

### 浮遊物質量 (SS)

水中に浮遊している不溶性の物質。水の濁りの原因となる。光の透過を妨げ、河底に堆積すると河底の生物にも悪影響を及ぼします。

環境基準 50 mg / l 以下

### 溶存酸素量 (DO)

水中に溶解している酸素の量です。1気圧のもとで20度の清水には約9mg/lの酸素が溶け込みます。気圧、水温などによっても数値は変動します。また、日中、水中植物の光合成が行われるとDOは高くなります。

環境基準 5 mg / l以上 (C類型)